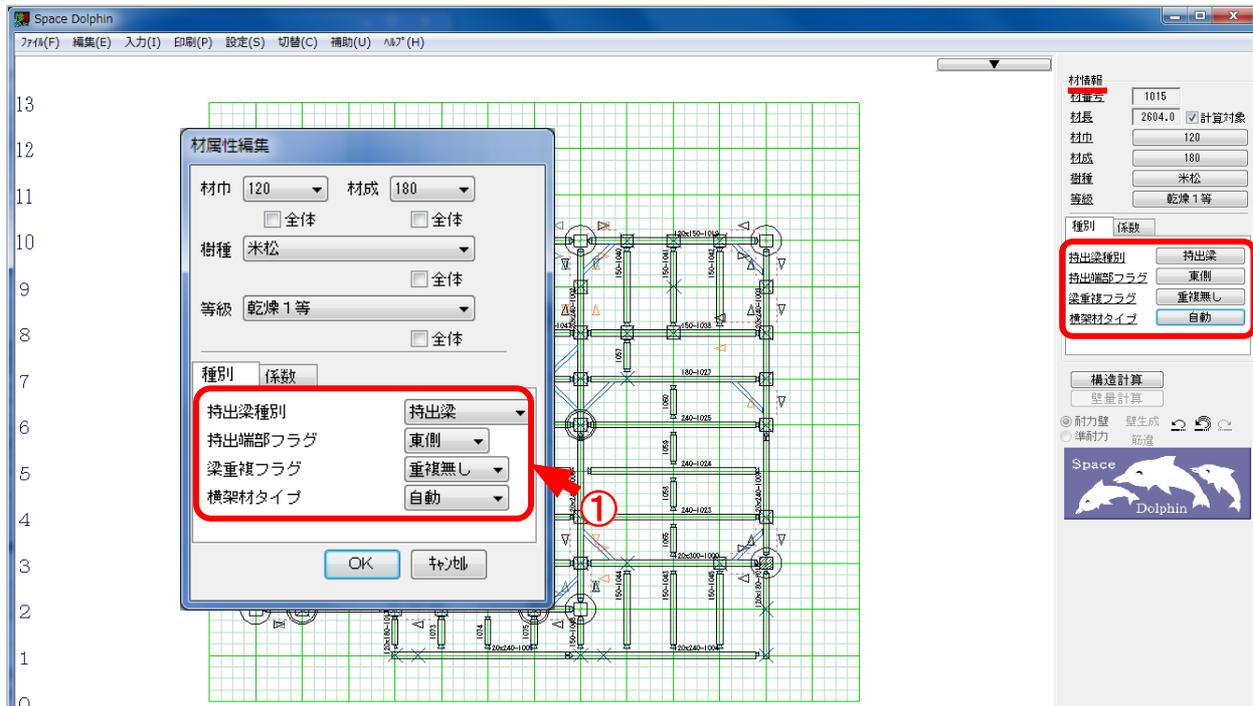


伏図モード



持出梁の判定は基本的には自動で行います。複雑な梁の組み方をした場合の計算結果が、正しく持出梁として判定されない場合は、梁の属性にて「持出梁」の指定を行います。

- ① 横架材モードにします。持出梁を指定する横架材をクリックするか、または、右クリックすると「材属性編集」のダイアログが表示されます。  
CAD画面右の〔材情報〕にて持出梁の選択が可能です。

『持出梁種別』……一般梁、持出梁、受梁、持出&受梁(=持出梁であり、かつ他の持出梁の受材となる梁)

『持出端部フラグ』…持出している方角を指定します。  
この設定も合わせて行わないと持出梁が正しく計算されません。  
※「STRDESIGN V15.1 リファレンスマニュアル」P281～282を参照ください。

『梁重複フラグ』……標準階高に入力した梁下に、梁が平行に存在する場合(枕梁等)に使用します。  
※「STRDESIGN V15.1 リファレンスマニュアル」P317を参照ください。

『横架材タイプ』……たわみの制限値に対するタイプの変更、及び母屋⇄小屋梁の変更ができます。登梁上部の横架材が棟木(母屋)の場合、小屋梁に変更しないと支点となりません。